

# 神戸市市民福祉調査委員会 介護保険専門分科会

## 2025 年度 第 2 回企画・調査部会

日時：2026 年 2 月 25 日（水）14：00～16：00

場所：神戸市役所 1 号館 8 階 大会議室

出席者：大和委員、澤田委員、久次米委員、松下委員、榎本委員、辰己委員

- I 開会
- II 定足数の確認
- III 副局長あいさつ
- IV 議題

### 【審議事項】

#### 第 10 期介護保険事業計画の策定について

##### ○委員

介護人材が不足している状況でサービスを継続して供給できているのか。

##### ○事務局

全国的にも、おおよそ 60 万人の介護人材が不足するとされている。処遇改善、外国人介護人材の確保、ICT の活用による職場環境の改善等、総合的に介護人材不足に対して取り組んでいく必要があると考えている。

##### ○委員

在宅高齢者実態調査 問 25 「特別養護老人ホームに住み替えたり、入所する場合、食費、居住費、介護費用も含めて毎月の支払額は、いくらくらいまでなら負担できるか」において、15 万円未満の回答が多いことから、特別養護老人ホームのような費用が安く利用しやすい施設を望んでいるように思う。神戸市として、施設整備の予定はどのように考えているのか。



特定の要因は把握していないが、特定施設は介護保険事業計画で整備数を決めているため、指定を受けることはハードルが高く、今の運営を継続していると考えており、市としても、指定を取るよう促す方針は取っていない。

○委員

第10期計画の骨子案で医療・介護連携の強化という目標を新設されているが、医療・介護の連携を系統的に進めるために何か考えていることはあるか。

○事務局

国において、介護サービス利用者、居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）、介護事業所、医療機関、市町村でデータを共有することができる介護情報基盤を構築しているところ。神戸市では国の標準化システムを構築する必要があり、令和12年1月に運用を開始する予定。また、介護情報基盤の運用のスタートに向けて、ケアプランデータ連携システムの導入を促進する周知を図っているところ。他都市の先行事例等を参考に、皆さんと情報共有させていただきながら進めていきたいと考えている。

○委員

医療分野に強い等、質の高い介護人材の養成について、計画に反映する取り組みはあるのか。

○事務局

計画に反映する具体的な施策はこれからの議論になるが、医療・介護連携において、人材というところは大事な要素であると考えている。

○委員

看護と介護で重なる部分でもあるが、処遇改善は進んでいるが、実感として待遇が良くなったと思われていない。18歳の高校生等から選ばれる職業になるためには啓発が重要になると思う。

○事務局

ご指摘のとおり、介護の仕事の魅力ややりがいなかなか伝わっていないことは1つの課題と考えている。実際働いている方にインタビューをし、生の声をウェブサイトに掲載する等、介護の仕事の魅力ややりがいを伝えていくことが重要と考えている。

○委員

ケアマネジャーに医療の知識が不足しており、医療機関としては必要のない訪問看護をケアプランに入れているケースが多いと感じる。医療と介護の連携には、介護関係者も医療知識のレベルを上げる必要があると思う。神戸市としては、医療介護サポートセンター事業を実施しているが、そこでの情報交換を通して、医療、介護お互いの能力向上を図っていく必要があると思っている。今後、現場での情報交換が必要になるため、第10期計画の中でも情報連携に力を入れてほしい。

○部会長

議論を踏まえまして、事務局の原案のとおり、3月30日の介護保険専門分科会に報告するというところでよろしいか。

(委員承認)

【報告事項】

保険者機能強化推進交付金等

○委員

交付金の減点について、次年度の評価に向けて見直しは行っているのか。

○事務局

評価基準の見直しにおいて、どうして失点したか分析し、どのような取組が足りていないのかをしっかりと考えていく。

## 総合事業サービスワーキンググループ報告

### ○委員

要支援等の高齢者がサービス等の利用に至り（フレイル予防に取り組むこと）、高齢者の自主性をどのように育てていくかが課題であり、それに対し総合事業を活かしていくことが大事である。（総合事業のサービスについては、）高齢者が出掛けていくことで尊厳が保たれることや、自分の意思が尊重される施設であるという観点でも推進をお願いしたい。

## V その他（全体を通じた意見）

### ○委員

介護人材の確保・育成・定着について、神戸市は ICT について消極的なところがあるので、その点についても計画に含めていただきたい。

### ○事務局

ICT について、導入できている施設とできていない施設の差がついてきていると感じている。現場の状況を確認しながら、全体として改善できるよう検討していく。

## VI 閉会

### ○部会長

では、以上で 2025 年度第 2 回介護保険専門分科会企画・調査部会を終了する。